



令和3年10月下旬号



進路だより

北海道富良野緑峰高等学校 進路指導部 文責 白鳥雅人



トヨタ自動車の採用担当者が語る！

～何がしたいかを明確に！面接は本音で語れ！～

10月25日月曜日に、トヨタ自動車の採用担当者とZOOM会議を行いました。本校の電気システム科から、毎年のようにトヨタ自動車に入っているという実績があります。

そういった信頼関係のもと、採用担当者はどんな視点で人物を評価しているのかということをも具体的にうかがうことができました。

「もちろん最初は履歴書を見ます。内容よりも先に、見たくなるような書き方をしているかが大事ですね。丁寧に書いているかそうでないかは一目見たらわかるので、面接の前に差がつきますよ。」

次に、面接です。どんな仕事をするのかよく分かっていないで試験を受けに来る人もいます。質疑応答のなかでいくらそれらしいことを言ってもそういう人は採用しません。細かく言えば、『御社の理念に共感したからここで働きたい』と言ってくれるのは構いませんが、じゃあ入って何をしたいの？と聞くと答えられない。そういうのはダメですね。

あと、こういっておけばいいかという考えもすぐに見抜きます。例えば1年生で部活動をやめた生徒に理由を聞くと、勉強に励みたかったとか、委員会活動との両立が難しかったとか、そんなばかりです。でも、実際は違うでしょ、先生？顧問と喧嘩したとか、人間関係の問題とか、何で素直に言えないかなと思います。こっちは本音が聞きたいんですよ。入社してから、上司と本音で語り合える付き合いができる人は長続きしますからね。

もう一つ、採用の基準としているのがやっぱり欠席日数です。明確な理由のない欠席が多い人はどうしてもそれだけで採用を避けますよね。」

まだまだ、色々なお話を伺いました。我々も皆さんには同じような話をしますが、実際の採用担当者の方からの言葉にはリアリティがありますね。



「働いている人」に興味を持とう



2年生はこれから見学旅行があります。その間に1年生はリコーの若手社員との交流会があります。1, 2年生のうちは、様々な大人と触れ合う時、その人はどんな仕事をしてお金を得ているのかを考えてみて欲しいと思います。自分にもそういう仕事ができるのか、または、それはやりたくない仕事と思うのかを考えてみてください。買い物に行くと、服を売っている人、トラックで荷物を運んでくる人、レジ

を打っている人、清掃をしている人、レストランでは料理を作っている人、注文を取るホールスタッフなど、がいいます。仕事の数、日本だけでも17000種類以上あると言われています。その中から自分に合う仕事、好きな仕事に就いてもらいたいと思います。何も考えずに3年生になってから求人票を見て決めるのではなく、色々な職業に興味を持って生活してみてください。